

保護者の皆様方のご理解、ご協力のおかげさまで、1学期が無事に終了しました。本当にありがとうございました。

目標は立てるべきだが、続かないという永遠の問題に挑戦してみる

69日(1年生は68日、6年生は70日)の1学期が、本日終わりました。数日前から子どもたちは、この日を指折り数えて待っていたようでした。だって、1学期終了=夏休みですもんね。朝登校時の話題にも夏休みのお楽しみがたくさん登場していたので、私もついうれしくなって聞いていました。

その中で、夏休みは勉強を頑張る、というお子さんが結構いることに気づきました。苦手を克服する、という意気込みです。が、その後、多くのお子さんが続けて言うのが、次のような話。

「でも、続かないんだよね。この勉強…」

わかる。



確かに、夏休みの目標や学期始の目標にも、苦手克服はよく顔を出します。でも、この苦手克服がとても難しい。かく言う私も、小学校時代から苦手克服(「字を丁寧に書く」や「人の話を最後まできちんと聞く」など)を目標に掲げてきました。そして、三日坊主…

今回は、この苦手克服がなぜうまくいかないのかを徹底的に追及してみたいと思います。

まずは、自分の苦手なところは?と聞いてみると、こんな答えが返ってきます。

「算数(数学)、発表、走(投…)力、コミュニケーション…」

本当ですか?例えば、算数が苦手だと思っているお子さんの話の続きを聞いてみましょう。

「計算はとっても苦手!面倒くさい。でも、三角形とか面積とかになるといける。(調査は?)調べ活動ってことですか?調査するのも好きです。これも算数ですか?」

そうなんです。漠然となんとなく苦手意識があるんだけど、しっかりと分析してみると、意外と算数の中にも、苦手な部分と得意な部分がある。さらに、近くにいた友達から、こんな突込みが。

「いや、計算もできると思うよ。かなさん(仮名)は、算数が得意な人だと思っていたよ!」

いやはや。得意や不得意は、主観がずいぶん反映されてしまい、本当の自分が見えにくくなることもあるようです。

結果、自身の課題は割とあいまいで、目標を立てづらいボヤっとしたものになっている場合が、意外と多いのではないかな。だから、本当の課題解決につながりにくい、こちらももやっとした目標になりがち。もやっとした目標には、モチベーションも上がらず、三日坊主。

三日坊主の問題点は、こんなところではないかと思います。

だから、解決策は、自分の課題の明確化。とはいえ、自分の課題、いや自分自身が一番見えにくいことは、この通信でも論じてきたところです。さらに、難題現る!

自分自身をしっかりと見つめることからしか、持続可能で適正な目標は立てづらい。かといって、自分自身を見つめることは、非常に難しい。

そうだ、そんなときには、友達や家族から見てもらえばいいかも。自分のストロングポイントやウィークポイントを見てもらおう。指摘してもらおう。鏡をじっくり見るような気持ちで、友達や家族からの声を浴びる。そして、自分自身の輪郭を、少しずつ少しずつ自分自身で形どっていく。

夏休み前半は、自分をじっくり見るための家族との対話がおすすです。みえる化するためのツールとして、ジョハリの窓(参照:[学校通信 No. 29 保護者自由参観にぜひお越しください](#))はどうでしょう。単なるダメ出しではなく、適度なよさを伝え合うのが、うまくいくコツのような気がします。